

です。吹張地区は、事業費3億5千万円の完成堤化で、用地買収が終了し、来年3月に工事発注予定とのこと。

一関遊水地建設事業の衣川本川堤防及び衣川左岸堤防は、事業費7億2千万円の完成堤化で、接館遺跡保存のため、衣川流路変更掘削工事が完了し、9月から新河道に切り替りました。

北上川の治水対策については、引き続き今後の工事の進捗状況、現状調査等が必要であることから、今後継続して調査することとしました。

奥州市地域医療調査特別委員会

奥州市地域医療調査特別委員会は、9月24日、奥州保健所の野村暢郎所長を講師に招き、地域医療連携について勉強会を開催しました。

当委員会は、医師不足の今日、持続可能な地域医療確保のため、公立・民間全ての医療機関がそれぞれの能力を生かした連携を進めることが必要とされ、活動の一つにその方法を模索してきました。

このたび野村所長から「尾道方式」と呼ばれる尾道市医師会の先



地域医療に関する勉強会

進的な取り組みの紹介がなされました。高齢化が進んでいる尾道では、「自宅で古い死ぬ医療」を目標として、開業医による「在宅主治医」方式を創設しました。それは病院主治医と連携した在宅主治医を核とする各科開業医のドクターチームを編成し、ケアマネジャー・介護関係者も加わり、患者に切れ目のないサービスを効率的に行っているというものでした。

この方式の先に立っているのは開業医の片山尾道医師会長でした。行政で仕組みを作れないか、との質問に、所長から医師会からの協力が不可欠との説明がありました。

奥州市においても医師会の協力によって同様のシステムが発足することを強く願い、勉強会を終了しました。

*制度詳細は、インターネット「尾道市医師会」地域連携をどう構築するか”参照。

岩手・宮城内陸地震等被害調査特別委員会

岩手・宮城内陸地震等被害調査特別委員会は、今定例会中の9月25日に委員会を開催し、市長、副市長及び関係する部長等の出席を求め、岩手・宮城内陸地震に係る現在の復旧状況等について調査し



復旧状況現地調査（衣川区）

ました。

また、委員全員で、農林部、都市整備部、及び水道部が所管する災害復旧工事現場等に出向き、現在の復旧工事等の状況について現地調査をしました。

委員会において都市整備部に係る災害復旧事業状況は、道路89件、橋梁7件、河川3件、計99件のうち、完成87件、発注済11件、未発注1件であり、未発注を除く98件が年内完了見込みです。

また、胆沢区の仮設住宅入居者4世帯については、1世帯は中古住宅に、3世帯は市有地を購入し、新築移転する方向にあり、衣川区石生地区の仮設住宅で生活している4世帯については、裏山の崩落防止の一定の工事が終了次第自宅に戻れることが報告されました。

午後の現地調査では、衣川区天土地区の県事業主体の緊急治山事業、林道黒滝衣の滝線の土砂崩落現場（完成）、市道外の沢線の工事の復旧状況、県道栗駒衣川線、餅転橋の復旧施工状況、花巻衣川線大平坂の復旧工事状況、北股浄水場の災害復旧状況を調査しました。委員長の「今議会で継続審査とし、閉会中でも審査したい」という提案が全会一致で承認されました。